

令和 7 年 6 月 5 日

令和 6 年 (2024) 度事業報告

I 概要

令和 4 年度に生じさせた赤字問題の処分を受け、令和 6 年度は新代表理事を選出し事業実施や財政再建に臨むことになった。依然、財政的に厳しい中、加盟団体の協力や役員などが一丸となって工夫をしながら各種の取り組みを進めた結果、収支の黒字化を実現することができ、正味財産も基本財産を上回ることができた。しかし、まだ道半ばというのが実態である。

こうした中、令和 6 年度の特筆すべき出来事としては、パリオリンピック 2024 のスポーツクライミング（以下 SC）競技でメダルこそ銀 1 つであるものの、選手たちが世界中から注目を集めたパフォーマンスを発揮したこと、20 周年の広島大会に続きアジア山岳連盟（UAAA）創立 30 周年記念式典及び祝賀会など各種行事を新潟県で開催したことなどが挙げられ、その活動量は完全にコロナ前の水準に戻った。

II 事業総括

1. 競技系

- (1) SC は、昨年度に引き続きワールドカップなどの世界大会に日本代表選手は積極的に参加し、成果を挙げてきた。8 月にはパリオリンピックが開催され、スピード競技には参加しなかったものの複合競技（ボルダー & リード）へは、男女 2 名ずつ 4 名の選手が参加した。その結果、男子では安楽宙斗選手が銀メダル、女子では森秋彩選手が 4 位に入賞した。檜崎智亜選手は 10 位、野中生萌選手は 9 位という結果だった。
- (2) 山岳スキー（以下 SKIMO）は、2026 コルチナダンペッツォ冬季オリンピック上位入賞を目指すべく強化活動を進めている。そのために夏季においても海外遠征して合宿を行っている。
- (3) なお、上記 (1) (2) の両競技とも、国スポ大会ほか、各種国内大会の効果的・効率的なマネジメント体制が確立していることを示すことがスポンサー・行政等に対しても重要である。さらにアンチドーピングや倫理研修を含めた教育体制についても、翌年に向け引き続き体制を整備する。
- (4) SC 競技を支えていただいている主要スポンサーとの 4 年単位の契約は今年度で終了したが、令和 7 年度以降についても契約更改することが確定している。

2. 登山系

- (1) 夏山リーダーを含む指導員やコーチの育成、全日本登山大会、安全登山研修会、レスキュー研修を継続して行い、大きな社会問題である遭難増に対しての防止対策につなげられるように努力した。
- (2) 新潟で行われた全日本登山大会や、安全登山研修会も、参加者は予定より少なかった。また、レスキュー講習会は施設の都合により、例年と異なる施設で、日程を変更して行われ、参加者も予定より少なかったが、充実した内容で、実施することができた。
- (3) 一方、海外登山奨励、ウインタークライマーズミートを通じ、アルパインクライミングの振興に努めた。

3. アジア山岳連盟（以下「UAAA」）創立 30 周年記念事業

「国際山岳平和祭 in 長岡 2024」と称した本事業が日本で行うことが決まったのは 2 年前であるが、準備の本格稼働は 5 月に入ってからで短期間での作業となった。7 月 24 日の UAAA 総会、25 日の高頭祭、弥彦神社たいまつ登山祭、さらに 26 日の式典・祝賀会と何とか滞りなく終了したが、準備不足気味の影響はあった。結果的には、アジアからの参加者は 9 か国 13 団体、62 名に上った。一方で VISA 発給に関しては、従来以上に厳しくなっており、希望しても参加できなかった国が 3 か国あった。

当事業は UAAA 日本委員会、新潟県山岳協会、日本山岳会（以下「JAC」）、JAC 越後支部、日本勤労者山岳連盟と多くの山岳団体が協力して成し遂げることができ、これら団体へ感謝の念を禁じ得ない。

4. 総務・独立系

表彰については、日本登山界に関係する表彰が規定どおりにはいけなくなっていたが、令和 6 年度は日本アルプス縦断のトレイルランニング大会を主催する団体を特別賞として授与した。

登山月報/HP は JMSCA の顔として常に新鮮な情報を提供するように努めてきたところであるが、紙面による発行は費用面や地方岳連・協会における配布作業の負担などが大きく、デジタル化の時代ではないかという声にも押され印刷の発行部数を減らし、PDF での HP 掲載を中心とすることとなった。

JMSCA と多くの皆さまを結びつけるシステムとして準備されてきた JMSCA フレンドについては実現までにはまだハードルがある。クラウドファンディングについては、令和 7 年度から開始するため準備作業を行った。

令和 6 年度の山岳共済会山岳保険加入者は 38,567 人となり前年比マイナス 2,295 人となった。今後も各岳連等と連携し、加入者増につながるような

対策と、諸活動が必要である。

5. 国内の諸団体との関係強化

日本スポーツ振興センター（以下 JSC）、日本スポーツ協会（以下 JSP0）、日本オリンピック委員会（以下 JOC）や、山岳 3 団体等との関係も重要である。JSC 国立登山研修所とは継続して各種研修会を共催しており、JSP0 とは特に国スポ、指導委員会で協力体制を構築している。JOC からは、スポーツ庁からの調査や、コーチ設置事業、ロビー活動費、補助金などで恩恵を受けている。また、7 月に開催した全国山岳遭難対策協議会はスポーツ庁とも深く連携した。

一方、当協会では、内部事業が増加し、山岳 3 団体との連携は以前よりは薄れてきていたが、10 月の山岳 4 団体連絡会を通して国内登山界の中心となるよう、登山部門において、さらに密接な関係を維持していきたい。

6. 地球規模の問題

環境問題、気候変動についての協力、研究については、SDGs とも関わっているが、当分野の活動については、これからの課題である。

Ⅲ 組織運営及び財政の確立

(1) 運営

赤字問題の発覚後、原因究明と責任追及に終始してきたが、その間に組織の在り方や本来為すべきことは何かということを検討してきた年度であった。その根拠となる「組織管理運営規程」の見直しを開始し、現在、道半ばとなっていることから早期に取りまとめていく必要がある。この過程で、代表理事の交代に加え理事が 6 名退任し、新たな体制での運営となった。

また、SC の主要 8 競技会開催をマネジメントする者を初めて業務委託とする試みを行い、一定の成果を上げることができた。令和 7 年度も同様に効果が期待できるか注視している。

(2) ガバナンス

例年、ガバナンスコードについて上部団体から指導があり、これを徹底していくための研修をすべきであったが、赤字問題対応に終始したことで、疎かになったことは否めず、令和 7 年度に向けて徹底していくこととしている。

(3) 財政

赤字問題発覚後、財務管理にはいくつかの新しい取り組みを導入した。

その一つが高額の予算執行を事前に整理して内部で共有する執行伺い制度の導入である。また、毎月の財務委員会においては、予算執行状況やキャッシュフローの様子を把握、監視し、事態の悪化を防いできた。

その結果、基金制度の募集等はしなかったが、関係各位のご協力により、年度末の資金不足の事態を避けることができた。

また、選手強化事業では、選手参加料等を含めた事業報告を行うことで、上部団体（JOC）からの補助金の充足率を高めることができ収益増につながった。

(4) 組織基盤強化

赤字問題に関係し年度を通じて組織体制が揺らいできたが、本年度終盤に区切りがつき、令和7年度に向けて見通しがついてきた。

今後は、1日も早く加盟団体、理事、委員会、事務局が一体となり、強固な組織基盤ができるよう努めていく。

(5) 会員状況

会員の状況は以下の通りである。（2025年4月1日現在）

(ア) 正会員 69名（加盟団体48名・学識経験者21名）

(イ) 賛助会員 団体 9社

(ウ) 賛助会員 個人 74名（退会9名、逝去2名）

賛助会員数については、減少傾向がとまらず、引き続き会員確保に努めなくてはならない。

(6) 収支報告概要

(ア) 貸借対照表 (Page1)

正味財産は、38百万円となり、18百万円増えている。しかし、銀行借り入れや、一個人からの40百万円の借入が大きく貢献した。

(イ) 正味財産増減計算書 (Page 2-4)

収益は591百万円（対前年度比113.9%）、費用は584百万円（対前年度比104.4%）となり、全体としては6.9百万円の経常増額となった。

(7) 経営上の課題と対策

2021年度から続く赤字状況については、予算執行管理に関わる運用規律の確立と、遵守が未徹底という反省に立ち、令和6年度に定時総会後に、財政再建委員会を設置した。当委員会を、さらに活性化させ、財政再建のための対策立案と実施を進めている。

以上

IV 事業内容

令和5年度の事業の一環として以下が実施された。

監事監査 期末監査 2024年 5月30日(木)、31日(金)
令和6年度総会 2024年 6月23日(日)

2024年4月1日～2025年3月31日までの令和6年度事業実績について記す。

網掛けはJSC補助事業。

1. 安全登山普及事業

網掛けはJSC補助事業。

(1) 青少年育成事業(普及委員会)

ア) 高体連登山専門部関連

- ① 第68回全国高等学校登山大会の開催 令和6(2024)年度福岡県大会
8月2日(月)開会式 そえだ公民館
8月2日(金)～ 5日(日)登山行動 山域は英彦山山系
8月6日(火)閉会式
- ② 第15回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催
12月21日(土)～22日(日)埼玉県加須市市民体育館

イ) ジュニア登山教室

- ① 「少年少女登山教室」の開催(委託実施)
15岳連まで申請対応し予算上限に達したため、新規受付を停止した。
- ② 「登山普及情報交換会」開催
2025年3月9日(日) リモートで実施

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・2024年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰
- ・第60回全日本登山大会功労者特別表彰(10回以上の参加者:5名)及び開催地関係者への感謝状(団体)贈呈
- ・2024年度永年参与感謝状贈呈
- ・特別功労者表彰
- ・第14回日本山岳グランプリの公募と顕彰
山岳グランプリ、奨励賞とも該当者なし。
特別賞:TJAR(トランスジャパンアルプスレース)実行委員会

- ・ 2024年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦
日本スポーツ賞：安楽宙斗選手 推薦
- ・ 2024年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦
- ・ 2024年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦
- ・ 2025年度叙勲及び褒章候補者の推薦
- エ) 2024年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)
前期海外登山奨励金選考委員会選考結果:3隊 合計 80万円助成決定
後期：対象隊なし
- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援
- カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

(3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際、登山医科学の各委員会)

普及委員会

- ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施
 - ① 東部地区(富山県) 9月27日(金)～29日(日)
 - ② 西部地区(高知県) 11月15日(金)～17日(日)
- イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催、普及委員会より)
 - ① 高等学校等登山指導者夏山講習会
7月19日(金)～20日(日) 長野県山岳総合センター・周辺山域
ウェッブ会議システム 年3回
 - ② 安全登山サテライトセミナー
大阪会場： 6月22日(土) 株式会社モンベル本社
東京会場： 12月22日(日) 一橋講堂 中会議場
ウェッブ会議システム 年6回
Plus(ウェッブ会議システム) 8月10日(土)、11月23日(土・祝)
 - ③ 登山リーダー夏山研修会 8月18日(日)～23日(金)
国立登山研修所及び劔岳周辺
 - ④ 山岳遭難救助研修会
2024年10月7日(月)～11日(金) 国立登山研修所及び周辺山域
 - ⑤ 積雪期登山基礎講習会
2025年 1月31日(金)～2月2日(日)
国立登山研修所及び周辺山域(富山県立山)
 - ⑥ 登山リーダー冬山研修会
2025年 2月23日(日)～28日(金) 国立登山研修所及び周辺山域
- ウ) 第60回全日本登山大会
2024年 9月21日(土)～23日(月) 新潟県 参加者約160名
- エ) 第8回「山の日」全国大会 東京2024
2024年 8月11日(日)～12日(月)

遭難対策委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

- ① 無雪期（富山県・国立登山研修所） 6月21日（金）～ 23日（日）
（参加者：16名）
- ② 積雪期（群馬県・土合山の家） 2025年1月24日（金）～ 26日（日）
（参加者：45名）

イ) 地方講習会講師派遣事業

地方（各都道府県）で開催される講習会へ、要請に応じて講師を派遣する。

ウ) 研修及び研究会

- ① 遭対常任委員研修会
11月23日（土）～24日（日） 群馬県水上町
- ② 遭難対策委員長会議・研修会
6月29日（土）～30日（日） 37名（会場：15名、Zoom 22名）
開催場所：東京会員会館
- ③ 全国山岳遭難対策協議会
7月12日（金） 開催場所：文部科学省

エ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

- ・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動
- ・登山届システム・コンパスの協定未締結府県の解消
- ・山岳保険の普及促進
- ・都道府県単位での道迷い対策等の減遭難活動実施

オ) 令和6年度全国山岳遭難対策協議会の共催（スポーツ庁他）

カ) 遭難事故科学的研究・他支援

- ・日本雪崩搜索救助協議会（AvSAR 協議会）参画

キ) 遭対委員会 年間オンライン等

ク) 「国内旅行傷害保険包括契約」実施

国際・アルパインクライミング委員会

ア) 令和6年度国際委員ミーティング及び第60回海外登山技術研究会

日程：6月15日（土）、16日（日） 場所：東京都武蔵野市武蔵野公会堂

参加者112名（会場：34名、YouTube:65名、スタッフ：13名）

イ) 第2回アルパインクライミング懇談会

日程：11月26日（火） 会場：すみだ産業会館

ウ) 助成事業

国内ウインタークライマーズ・ミート 2025年2月23日（日）～24日（月）

北海道 上ホロカメットク山

登山医科学委員会

山での応急手当講習会

日程：11月9日（土）、10日（土）

会場：神奈川県立山岳スポーツセンター（秦野）

参加者：23名（受講者12名、スタッフ11名）

（4）登山指導者育成事業（指導委員会）

ア）指導員研修会

① 全国指導委員長会議（現地とオンラインのハイブリッド開催）

6月 1日（土） 65名（対面：28名、Web:37名）

2日（日） 53名（対面：28名、Web:25名）

埼玉県立県民活動総合センター 登山指導委員会、SC指導委員会共同で実施

② 登攀技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）

11月 3日（日）～4日（月）に兵庫県で開催

③ 氷雪技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）

2025年 2月 1日（土）～ 2日（日）大山（大山館）

④ 氷雪技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）

2025年 3月15日（土）～16日（日）谷川岳（土合山の家）

⑤ 上級夏山リーダー講習会

西部地区 上級夏山リーダー講習会 3月20日22日23日

兵庫県主管 六甲山周辺で開催 参加人数7人

⑥ 上級夏山リーダー検定会 東部地区で開催

東部地区 上級夏山リーダー検定会 3月20日22日23日

埼玉県主管 飯能地区で開催 参加人数9名

⑦ 夏山リーダー講師養成講習会

神奈川県主管

2月23日24日 神奈川県山岳スポーツセンターで開催 参加人数12名

イ）指導常任委員会 年間オンライン会議（毎月第一月曜日）

ウ）国立登山研修所事業への協力（夏山、積雪期、セミナー）

エ）インターハイ 技術顧問参加

2. スポーツクライミング事業

（1）競技会運営事業（競技委員会）

ア）第12回リードユース日本選手権いわて盛岡大会(LYC2024)

5月 4日(祝・土)～6日(祝・月)、岩手県盛岡市

参加者：247名

- イ) 第10回ボルダージュース日本選手権いわて盛岡大会 (BYC2024)
5月11日(土) ～12日(日)、岩手県盛岡市
参加者：294名
- ウ) 第4回ボルダーフューチャーカップ (BYC2024)
9月14日(土) ～15日(日) 銚田市
会場：銚田市生涯学習館「とくしゅくの杜」スポーツクライミングセンター
- エ) 第3回リードフューチャーカップ (LYC2024)
11月9日(土) ～10日(日) 西条市
会場：石鎚クライミングパーク SAIJO
- オ) 第15回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会
12月21日(土)～22日(日)、埼玉県加須市
- カ) ボルダージュアパンカップ2025
2025年2月1日(土)～2日(日)、駒沢オリンピック後援総合運動場屋内球技場
- キ) リードジャパンカップ 2025
2025年3月1日(土)～2日(日)、DMG MORI アリーナ
- ク) スピードジャパンカップ2025(SJC2025)
2025年2月16日(日)、九州クライミングベース SAGA
- ケ) 第5回スピードユース日本選手権多久大会(SYC2025)
2025年2月16日(日)、九州クライミングベース SAGA

(2) 国スポ スポーツクライミング競技の主催(国スポ委員会)

五輪競技種目に沿った国スポ スポーツクライミング競技の推進

第78回 SAGA 国民スポーツ大会(佐賀県)

ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

- ① 第1回基準会議 5月18日(土) 13:00～ 佐賀県立多久高校会議室
- ② 組み合わせ抽選会 場所、JSOS ビル 9月7日(土) 午後2時
- ③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ④ リハーサル大会 6月8日(土)～9日(日)
九州スポーツクライミングベース SAGA 佐賀県立多久高校
- ⑤ 本国スポ スポーツクライミング競技10月12日(土)～14日(月)
(11日監督会議)
九州スポーツクライミングベース SAGA 佐賀県立多久高校
- ⑥ 次年度国スポ 以降の開催県への指導
第84回島根国スポ正規視察実施予定
第5期実施競技選定対応

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

ウ) 代表選手の派遣

IFSC クライミング WC 4月～9月 世界各地

- ① ワールドカップ上海 中国・上海
4月 8日 ～ 4月10日
- ② ワールドカップ呉江 中国・呉江
4月12日 ～ 4月14日
- ③ ワールドカップソルトレイクシティ 米国・ソルトレイク
5月 3日 ～ 5月 5日
- ④ オリンピック予選上海シリーズ 中国・上海
5月16日 ～ 5月19日
- ⑤ オリンピック予選ブダペストシリーズ ハンガリー・ブダペスト
6月20日 ～ 6月23日
- ⑥ ワールドカップインスブルック オーストリア・インスブルック
6月26日 ～ 6月 3日
- ⑧ ワールドカップシャモニー フランス・シャモニー
7月12日 ～ 7月14日
- ⑨ ワールドカップブリアンソン フランス・ブリアンソン
7月17日 ～ 7月19日
- ⑩ パリオリンピックサポート フランス・パリ
8月 2日 ～ 8月10日
- ⑪ パリオリンピック フランス・パリ
8月 5日 ～ 8月10日

ボルダー&リード

男子 2位 安楽宙斗 10位 檜崎 智亜
女子 4位 森 秋彩 9位 野中 生萌

- ⑫ ユース世界選手権 中国・貴陽

8月22日～8月31日

リード、ボルダー、スピード

リード

(ジュニア)

男子 1位 杉本 侑翼
3位 小俣 史温

(ユースA)

男子 1位 藏敷 慎人
3位 船木 陽

(ユースB)

男子 2位 濱田 琉誠 女子 1位 林 有沙

ボルダー

(ジュニア)

男子 1位 通谷 律

(ユースA)

男子 1位 長森 晴

女子 2位 村越 佳歩

(ユースB)

男子 1位 濱田 琉誠

女子 3位 村上 和香

3位 仲田 和樹

スピード

(ユースA)

男子 3位 田淵 幹規

⑬ ワールドカップコペル

スロベニア・コペル

9月 6日～9月 7日

⑭ ワールドカッププラハ

チェコ・プラハ

9月20日～9月22日

⑮ ワールドカップ ソウル大会

韓国・ソウル

10月2日～10月6日

エ) 代表選手強化合宿 (海外・国内)

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への
スポーツ障害予防啓発 (医科学支援)

キ) 複合種目 (リード、ボルダー) 及びスピード種目への取り組み

ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業 (技術委員会)

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力 ルートセッター派遣、
ブロック別研修会講師派遣

ア) 審判・セッター会議の開催 (2月)

イ) 全国ルートセッター講習会 年2回

・第1回: 11月13日 (水)、石鎚クライミングパーク SAIJO

・第2回: 12月24日 (火)、加須市民体育館

ウ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会 年9回

(5) SC コーチ養成講習会 (SC 指導委員会)

日程等については登山部のコーチ養成と歩調を合わせる。

- ① 全国指導委員長会議 6月1日(土)・2日(日) 埼玉県立県民総合活動センター
- ② コーチ養成講習会 主催；SC指導委員会（JSPO委託開催）
- ③ 主任検定員養成講習会(コーチ養成講習会と同時開催)
- ④ コーチ更新研修(コーチ養成講習会と同時開催)
- ⑤ コーチ3養成講習会(共通科目4月1日申込締切)

(6) スポーツクライミング医・科学事業(SC医科学委員会)

ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動

- ① BMI測定および血圧、脈拍

イ) 代表選手メディカルチェック事業

- ① REDsのチェック

ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業

- ① ユース向け医科学講習会
- ② クライミング医科学講習会

エ) 調査、研究事業

- ① 障害実態調査
- ② 学会活動（日本臨床スポーツ医学会ほか）

オ) JSPO公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援（受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席）

(7) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

- ① ドーピング検査実施（JADAに委託）
- ② ドーピング防止講習会開催
- ③ TUE（治療目的使用に関わる除外措置）申請の支援
- ④ ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援
- ⑤ 競技会におけるアウトリーチ

(8) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催（随時）

(9) 国際連盟役員獲得支援事業

スポーツ庁の委託を受けて実施する。

3. 登山関連競技会運営事業

(1) SKIMO 競技会 (SKIMO 委員会)

- ① 第18回日本山岳スキー競技選手権大会(宇奈月) 2025年1月18日(土)～19日(日)
- ② 八方パーティカル山岳スキー選手権 2025年3月30日(日)

(2) 山岳スキー強化派遣 (SKIMO 委員会)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ① 国際大会派遣 ワールドカップ イタリア | 2024年 4月 6日(土)～10日(水) |
| ② 国際大会派遣 ワールドカップ フランス | 2024年12月14日(土)～15日(日) |
| ③ 国際大会派遣 ワールドカップ アンドラ | 2025年 1月25日(土)～26日(日) |
| ④ 国際大会派遣 ワールドカップ スペイン | 2025年 2月 1日(土)～ 2日(日) |
| ⑤ 国際大会派遣 ワールドカップ イタリア | 2025年 2月22日(土)～23日(日) |
| ⑥ 世界選手権派遣 スイス | 2025年 3月 2日(日)～ 9日(日) |
| ⑦ 国際大会派遣 ワールドカップ オーストリア | 2025年 3月14日(金)～15日(土) |
| ⑧ 国際大会派遣 ワールドカップ イタリア | 2025年 3月20日(木)～22日(土) |

(3) スカイ／トレラン普及・振興

- ① (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業 (国際・アルパインクライミング委員会)

ア) 国際交流

- ① 訪日する外国登山代表団との交流
- ② UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

(2) 登山医・科学支援事業 (登山部医科学委員会)

ア) UIAA MedCom

- ① UIAA MedCom Meeting への出席

イ) 支援している医科学的諸事業

- ① JSMM 国際認定山岳医研修会
- ② NPO 富士山測候所を活用する会
- ③ JSMM 登山者検診ネットワーク
- ④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

ウ) 調査研究事業

- ① 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

ア) 研修及び研究会

① 令和6年度自然保護委員総会

6月20日(木) 定例委員会に併合 (リアルおよびWEB利用のハイブリッド会議)

② 全国自然保護委員長および自然保護指導員参加の「第48回山岳自然の集い」

リアルおよびWEB利用のハイブリッド会議&講演会

11月23日(金)、埼玉県民活動総合センター

③ 2024年度山岳自然環境研究調査 (神奈川岳連事業と共催)

実施せず。

④ 自然保護指導員フィールド研修会

6月15日（土）三ッ峠 希少高山植物保護活動に参加する研修会を実施

⑤ 第14回自然保護指導員研修会

JMSCA 主催、都岳連主管の自然保護指導員向け机上講習会

2025年1月26日（日）国立オリンピック記念青少年総合センター

イ) 自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

・全国の自然保護指導員の新規登録・更新作業

②自然保護広報資料の出版

・自然保護指導員の手引きの更新

③全国環境月間の実施

④環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦、自然公園指導員活動報告まとめ・環境省への提出

⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

・各種環境保護事業の後援と派遣

・自然保護の集い 11月23日（金）、埼玉県民活動総合センター

⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

⑦全国山岳自然保護関係活動の集約とHP広報

6. 共益事業

(1) 広報等

ア)『登山月報』毎月15日定期発行 第661号（4月号）～第672号（3月号）

イ) HPのタイムリーな更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

(2) 会議等

ア) 総会 2025年 6月23日（日）

イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日

6月は総会の15日以上前の日

ウ) 全国理事長会議 2025年2月 9日（日）

エ) 全国参与会 新春懇談会自に実施

オ) 常務理事会 原則として毎月第二火曜日

カ) 委員長会議

キ) 常任委員会 毎月1回以上開催

ク) 事務局会議（随時）

ケ) 山岳4団体懇談会

コ) (一財)全国山の日協議会（随時）

・上部団体 評議員会・理事会・運営委員会への出席

・第8回「山の日」記念全国大会 8月11日(土)～12日(日)東京大会

サ) 国際会議

- ① 国際山岳連盟 (UIAA) 理事会
- ② 国際山岳連盟 (UIAA) 総会
- ③ アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会
- ④ アジア山岳連盟 (UAAA) 関係事業

アジア山岳連盟創立30周年記念事業「国際山岳平和祭」in 長岡 2024

7月23日(火)～27日(土) 参加者 約180名

場所:新潟県長岡市 ホテルニューオータニ長岡、弥彦村、弥彦神社、大平園地

7月24日(水):総会 参加者43名

- ⑤ 国際山岳連盟登山部会
国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会
- ⑥ 国際山岳スキー連盟 (ISMF) 総会

(3) 総務等

- ア) 令和7年度定時総会 2025年6月22日(日)
- イ) 令和6年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- ウ) 議事録の整備
- エ) 山岳保険のPR(山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)
- オ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。
- カ) JMSCA 会員のデータベース化(JMSCA フレンド)の整備

(4) 財政等

- ア) 財源の確保
 - ① 山岳共済会々員の加入促進
 - ② 賛助会員(個人・団体)の加入促進
 - ③ ロイヤリティー収入源の具体策を検討
・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討
- イ) 外部資金の導入
 - ① グローバル・パートナーの獲得
 - ② 寄附金の獲得
税額控除を活用して推進する
 - ③ 組織基盤強化助成金の利用(令和6年まで)
 - ④ 基金の募集
- ウ) 常務理事会において毎月の収支報告
- エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理
- オ) 山岳共済会(事務センター)の運営管理・山岳共済会会計

以 上